

設立の背景と目的

日本古典籍研究国際コンソーシアム (Global Consortium for Japanese Textual Studies)は、このようにして生まれました。

設立の背景

- 単独の機関が資金 人材 技術等の研究資源を獲得 開発することは、年々困難の度を増してきています。
- 複数の機関が限られた資源を共有し、相互の長所 短所を補完できる場が必要です。
- そこで、大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」を通して、国内外50以上の機関をむすぶ研究ネットワークを構築してきた国文学研究資料館が幹事機関となり、国内外の機関が共同で、2020年11月、日本古典籍研究に特化した国際コンソーシアムを設立することとなりました。

日本古典籍研究とは

- 研究対象：19世紀（明治20年代）までの日本で作られたあらゆる書物（これを「日本古典籍」と呼びます）が研究対象です。狭義の「文学」に限らず、ありとあらゆる内容やジャンルが含まれます。
- 研究方法：原資料の形態や伝来を調査し、歴史的な文脈に即して内容を読み解く、実証的な研究方法を用います。これまでは、あたかも職人芸のように、師弟関係の中で受け継がれてきた側面が強いですが、このコンソーシアム設立を機に、オープンにしていきたいと考えています。
- 目的：19世紀までの日本を対象に、文字 絵による記録の生成 伝播 保存について調査し、様々な異なる社会 自然環境の中を生きた人々の知識 行動 思考 感性を実証的に考究することで、過去から引き継がれた資料 文化 社会について理解を深めることを目指します。
- 課題：文理を問わず、多分野からのアプローチ、及び多分野へ向けられたアウトプットが、これからの日本古典籍研究、また人文学研究の発展には不可欠となるでしょう。「日本文学」に限らず、様々な分野からのご参加をお待ちしています。

設立の目的

日本古典籍を対象とした研究と教育の深化 発展のために、国内外の機関が力を合わせて、情報や研究資源を共有できる場をともに構築していくことを目的とします。特に、以下3点について、国内外の研究者 専門職員 学生が協働できる場を作り上げていきたいと考えています。

- 人材（学生、研究者、司書 学芸員 アーキビスト等の専門職員）の育成
- 先端的研究に基づく研究成果発信等に関する情報 資源の共有と活用
- データベースの活用等に関する情報 意見の交換

期待される効果

- 専門的な知識 技能 研究手法の修得機会へのアクセス改善
- 教材（動画も含む）の共有や共同開発
- 授業の共同開設による単位認定や共同指導の可能性の模索
- 研究費の拠出

- 国 地域や分野をまたがる共同研究の促進、学会パネルの組成、イベントの共同企画
- 学会 学術誌の活性化
- デジタルデータやデータベースの活用に関する意見交換や技術の共有
- 国 地域を超えた実績評価指標の検討
- 研究成果の社会への還元

From:

<https://kotenseki.org/> - 日本古典籍研究国際コンソーシアム

Permanent link:

<https://kotenseki.org/about/purpose?rev=1594105518>

Last update: 2020/07/07 16:05